テーマ　【　生き物　】

品川区立西品川保育園

【テーマの設定理由】
　ビルや住宅に囲まれているが、四季折々の木々や花がある園庭に加え、小学校の第二校庭や畑等、自然の中の生き物を観察できる環境にある。子どもが「トンボがいた」「せみがいたよ」と発見したことを嬉しそうに話している。だんご虫やアゲハ蝶の幼虫、飼育しているカブトムシの幼虫に興味を示し、動きを観察したり育てたりしている。秋に玄関で捕まえたバッタが冬を越し、３月上旬まで生きていたと保育者や友達に話す姿もあった。子どもたちが保育園で過ごす中で、最も興味関心をもっていることをさらに深め、広げるため、『生き物』をテーマに設定した。

４歳児クラス　６月　「ダンゴムシ探し」

ねらい
身近な生き物や自然物に興味や関心を持つ

環境をデザインする
〈準備物〉
・飼育箱・霧吹き・砂、土・枯葉・絵本や

活動スケジュール
・ダンゴムシ探しをしてグループごとに飼育箱を分けて入れる
・ダンゴムシの家や食べ物を準備する
・各グループごとに飼育をする

活動の内容
・ダンゴムシを探す
・ダンゴムシの家作り
・ダンゴムシの食べ物の準備

子どもの姿
・友達と競うようにダンゴムシを探して飼育箱に入れていた
・他のグループのダンゴムシの様子を見たり、「だんごむしは、はっぱがすきなんだよ！」と言って落ち葉や枯れ葉を入れたりしていた

保育者との関わり
・「ダンゴムシはどんなお家が好きかな？」「ダンゴムシの食べ物は何かな？」等、子どもたちに問いかけたり、一緒に考えたりしながら進めた
・飼い方がわからないときは図鑑や絵本で子どもたちと一緒に調べるようにした

【保育者の気づき】
・だんごむしは、葉っぱが好きなことを一人が発信するとそれを聞いた周りの子どもたち４が自分のグループの子に伝えていた。葉っぱの準備の仕方も、枯れ葉のグループもあれば、緑の葉を集めるグループもあり、グループで、減り具合を比べる姿もあった。

５歳児クラス　６月　「カブトムシの誕生」

ねらい
カブトムシの幼虫の世話を通して、成虫へと変化する様子に興味関心をもつ

子どもの姿
・子どもは、カブトムシが幼虫からさなぎ、成虫へと変化する様子や大きさを言葉で表していた。図鑑を持ってきて見ている子もいた

保育者との関わり
・子どもたちの言葉を聞きながら、子どもの気づきに共感し、不思議に思ったことなどを聞き出しながら、図鑑などを利用して調べられるようにした
・自分たちで気づいて、カブトムシの世話を意欲的にやろうとする姿を認めた

環境をデザインする
〈準備物〉
・飼育箱　・飼育マット
・霧吹き　・広告紙
・ゼリー　・スプーン
・止まり木・ビニール袋

活動スケジュール
・毎日成長を観察しながら、糞を取り除いたり、土をかえたり、餌をあげたりする

活動の内容
・カブトムシの観察
・カブトムシの糞とり
・土の継ぎ足し

保育者の気づき
・去年の年長からカブトムシの世話の仕方を教わったことで、自分たちが年長になってからは、自主的に世話をする姿が見られた
・カブトムシを観察する中で、フンが出たことに気づいてとったり、土の色を見て、水の量を調整したりするなどの工夫をするようになった
・日中の様々な時間に興味を持った子が様子を見に来て、友達と気づいたことを伝え合う様子も出てきて、その後は制作活動にも発展していった

４歳児クラス「ザリガニとのふれあい」７月

ねらい

生き物に興味関心をもち、親しみの気持ちをもって触れたり世話をしたりする

活動スケジュール

- ザリガニについて絵や図鑑で調べる
- 各グループで水の入れ替えなどの飼育当番を行う

活動の内容

- ザリガニを観察する
- 水の入れ替えや水槽の掃除をする

環境をデザインする

〈準備物〉

飼育ケース・砂利・水・水草

ザリガニの家・絵本や図鑑

子どもの姿

- ザリガニを見て「えびかな？」と覗き込む子がいたが、近くにいた友達が「ざりがにだよ！」と教えていた。
- 「かに」という名前がついているが、図鑑などを保育者と一緒に見る中で、エビの仲間なのだと知ると驚いていた
- 絵本や図鑑を見ながら、ザリガニが食べるものや、飼い方を調べていた

保育者との関わり

- ザリガニとエビの違いが分かるように子どもたちと一緒に図鑑や絵本を見て調べるようにし探求できるようにした
- 保育者と一緒にザリガニの水槽の掃除や水替えを行い、掃除の仕方を教え、自分たちで取り組めるようにした

保育者の気づき

- ザリガニを見てエビだと思う子がいたり、ザリガニ自体を初めて見たりする子も多かった。子どもたちが知らない生き物を知ったり触れたりする機会を今後も増やしていきたいと感じた
- 日々観察している中で、子どもたちが気づいたことに耳を傾けながら、一緒に図鑑などを広げて調べながら、水の生き物への興味につながっていけるようにしたい

４・５歳児クラス「水の生き物との出会い」９月

ねらい
・海の生き物に興味関心をもって話を聞き、生き物に触れてみる経験から、発見したり、不思議を感じたりする

活動スケジュール
みずみずランド
（浅瀬の生き物）

活動の内容
・海の生き物についての話を聞く
・やどかりやひとでに触れる

環境をデザインする
みずみずランドに来園してもらう
〈準備物〉
生き物・海水
スクリーン

子どもの姿
・図鑑や水族館でみたものを実際に手で触れる際にはドキドキしながら触ろうとしたり、友達が触っている様子をみてから触り始めたりしていた
・みずみずランドが終わった後、夏に海に行ったことや経験したことを保育者に話し、経験したことを思い出しながら、魚の図鑑を見たり、制作活動に発展させたりしていた

保育者との関わり
・触ることが苦手そうな子には、保育者が率先して触り見せるようにしたり、一緒に手を添えたりしながら安心して触れるようにした
・子どもが興味関心をもったことに耳を傾け、子ども自ら調べたり、制作に発展させ表現したりする気持ちに寄り添い、生き物への興味を広げられるようにした

保育者の気づき
・みずみずランドで水に住む生き物を実際に見て触れることができ、喜ぶ姿が見られた。その後も、図鑑で魚の名前を調べたり、制作で水族館を作ったりと、自主的に楽しみ、工夫する姿が見られた
・なかなか直接触れることのできない海の生き物に触れることで視覚だけでなく、感触を楽しんだり匂いを嗅いだりするなど、五感に触れながら海の生き物に興味を深めていた